

「心臓突然死から救え! “みんなでPUSH”」一般市民向け救命講習会 “PUSHコース”:北海道PUSHプロジェクトの活動について

上野 倫彦^{1,2}、荻原 重俊^{1,2}、及川 欧

^{1,2} ¹北海道PUSHプロジェクト

²手稲溪仁会病院 小児科・こども救命センター

³旭川医科大学病院 リハビリテーション科

院外心停止の予後は、その場に居合わせたバイスタンダー、学校であれば生徒や教師の行動にかかっており、迅速な119番通報、胸骨圧迫、除細動が重要である。近年本邦では自動体外式除細動器(AED)は広く普及したが、使用率はあまり増加していない。そこで院外心停止の予後を改善するためには、一般市民に対する心肺蘇生教育が重要である。また、中学校、高等学校の学習指導要領にも心肺蘇生法が記載されるようになったが、講習時間が確保できない、訓練資機材が足りない、指導者がいない、指導マニュアルの不足、などが現場で問題となっている。PUSHコースは“3つのPUSH(胸をPUSH・AEDのボタンをPUSH・あなた自身をPUSH)”を合い言葉に、心肺蘇生の中で最も重要な、「胸骨圧迫とAEDの使い方」「誰かが倒れたときに声を掛ける勇気」をできるだけ多くの人に伝えるために、短時間でトレーニングできるように大阪ライフサポート協会により開発されたプログラムであり、全国各地に広がりつつある活動である。PUSHコースの特徴は、受講生全員に簡易シミュレータを貸与し、教材としてアニメを用いたわかりやすいDVDを用い、45分で完結する講習会であり、そのため子どもたちでもわかりやすく親しみやすい内容であり、学校教育の中でも心肺蘇生、AED教育を展開・普及させることができるプロジェクトである。北海道においては、旭川地区を中心に大学生や一般市民に向けて講習会を開催してきたが、札幌市でも2022年より手稲区で不定期に講習会の開催を始め、2023年度は、「冬休み親子でPUSH」企画を開催したり、近隣の幼稚園の先生に対して出張PUSH講習を行ったりした。今後は、本プロジェクトに賛同していただける仲間を増やし、一般市民向けのPUSHコースを定期的に開催したり、市内の小中学校、高等学校などで生徒や教師対象のコースを展開していきたいと考えている。

本口演においてPUSHコースのコンセプトや概要を紹介するとともに、大会3日目の展示ブースで、だれでも参加できるデモ講習会を複数回開催する予定である。